五堪忍

争

諍の身を害するも讐よりするも人をあざむかんとする者ハまづ我をほろぼすといへり徳の勝ハ負るが勝なり人ハかんにんとおもふの我慢をかちてたゞ何事も御かんにんなさる可く候

色

色欲ハよのつね身をほろぼすのもとゐ古今かぞへがたし色を貪る心おこらバ是色となげく心をやはらげつゝ身を亡ぼす心おこるとも悲しみつゝしんで非道とけ（?）孟躾しけんと御堪忍なさるべく候

奢

家と物数寄ふんして主の為も一生の費を好で家産の拂をおろそかに衣服をかざりて内証ハ見ぐるしき家も衣食住に栄耀なるハ家を失ふ本なりとおもひ心をつゝしんで御堪忍なさるべく候

欲

欲ハうごかさずに限りある命との為にかはり身の一生を苦しめぐるしみも止ずやかましく貪る心をやめ足るを知りて万事の分限に身をつゝしみ上を見ず下を見て貪る事を御堪忍可然候

富

富と云ハ和合ハ家内和合にあり和合の本ハ堪忍にあり漢の張公藝が九世同居して栄へしも堪忍の徳ありと読んでよく礼ととのひおもしろき言わず我を捨て右の五つの堪忍をもしたまはゞおのづから子孫長久に富をなすべし右につきし四つをかんにんしかねるむつかしき事あれバいるかりと急がつゝしみ御堪忍可然候

右の五堪忍ハ武州田舎の老人八十八才のとし是を書て子孫に与へて曰くこれハ壮年の時よりかんにんを第一として心を用ひ其後よりも家栄へ老にいたりても身体無事に過す是皆堪忍の徳なりとおぼへばこれあんべい

身も家も無事で目出度八十八ハ
ますます守るかんにんの徳

書林兼草紙屋（大坂[illegible]町）鹽屋喜兵衛板

五堪忍　争色奢欲富　文庫10-8063-15
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library